

道路行政セミナー2013年10月号 NO.061 2013年10月23日発行 ポイント

◇◆特集◆◇

★「道路法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の 整備に関する政令」の概要について★

(国土交通省 道路局 路政課)

道路法等の一部を改正する法律（平成25年法律第30号）は平成25年6月5日に公布され、また、道路法等の一部を改正する法律の施行期日を定める政令（平成25年政令第242号）により、同法の施行期日が同年9月2日に定められ、大型車両の通行の適正化関係の改正規定を除いた部分が施行されたところです（同法の概要については、本誌2013年6月号を参照ください）。

これに伴い、道路法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備に関する政令が制定され、同日に施行されました（平成25年政令第243号）。ここでは同政令の内容について紹介します。

◇◆道路占用Q&A◆◇

★EV充電機器の道路占用許可について★

(国土交通省 道路局 路政課 道路利用調整室)

EV充電機器の道路占用許可について解説する。

◇◆TOPICS◆◇

★協働による除雪の推進に関する取り組みについて★

(青森県 十和田市 建設部 土木課)

十和田市では、除雪重機の減少を背景とし、一部の生活道路について、地域住民との協働による除雪を推進している。本稿では、市による除雪の手が回らない地域の市道などを、住民自らがトラクターを活用して除雪する取組み「除雪パートナーシップ事業」について紹介する。

◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

★赤坂地下歩道における地域活性化の取組み★

～占用制度を活用した活動費の充当～

(国土交通省 関東地方整備局 道路部 路政課)

国道 246 号と外堀通りが交差する赤坂見附交差点の地下歩道(赤坂地下歩道)において、10月21日に占用許可を行い、壁面に地元の商店街振興組合が広告物を設置し、そこから得られる広告料収入による地域活性化に向けた取組みがスタートしました。

.....

★石川県の道路管理の取組み★

～のと里山海道・道路施設の長寿命化・自転車通行環境整備～

(石川県 土木部 道路整備課)

石川県における道路管理の取組みとして、のと里山海道・道路施設の長寿命化・自転車通行環境整備について紹介する。

.....

★石川県かほく市 道の駅「高松」(高松SA)再整備事業★

～「道の駅」を核にした安全安心・地域活性化について～

(かほく市 産業建設部 産業振興課)

能登と金沢を結ぶ大動脈である「能登有料道路」は、愛称を新たに「ふるさと紀行『のと里山海道』』として、本年3月31日より無料化を開始しております。

「道の駅高松」は、「のと里山海道」のサービスエリアとして利用されており、レストハウスや駐車場等を再整備することで、地域防災力の向上と地域の活性化を図っております。

◆◆編集後記◆◆

運転の未来が変わる？

10月14日（月）～18日（金）にかけて、東京ビックサイトにて第20回 ITS 世界会議 東京 2013 が開催されました。

20年目の節目を東京で迎えた ITS 世界会議。そのコンセプトは、「Open. ITS to the NEXT」。

次世代 ITS の実現に向け、渋滞解消などの交通課題の解決、生活の質の向上とともに、災害や不測の事態への的確で迅速な対応という社会の要請に答えるべく、これまで産官民が協力して技術の向上を図ってきた最先端の ITS 技術である自動運転技術や交通ビックデータの活用についての紹介がされました。

そのなかでも、特に大きな注目を集めていたのが自動運転車の開発。自動運転と聞くと、都会のビル群の上空に透明なチューブが張り巡らされ、その中を車が走るという、近未来を描いた物語を思い出します。いつかこんな未来がくるのかなとワクワクした記憶が呼び起こされました。

まだ遠い未来の乗り物のような気がしていた自動運転車の開発ですが、技術的には近い将来の実現は可能であるようです。一方で、交通ビックデータの活用については、道路から得られる情報を賢く使い、防災減災や地域活性化への一助とするなど、日々の暮らしに安心と豊さをもたらすための研究が進められているようです。

極度の方向音痴を自称しておりますが、ITS 技術のひとつであるナビゲーションシステムのおかげで、土地勘のない観光地でも迷わずに目的地にたどりつけることから、とても便利な世の中になったと車で出かけるたびに感じているところです。しかしながら、振り返ってみると、思い出に残る地は、迷いに迷って、ようやくたどりついたところが多い気がします。近い将来、目的地の入力だけで到着できることが可能になるかもしれませんが、たまにはスイッチを切り、迷うことも、良き思い出を作るためには必要かもしれません。

自動運転車が、高速道路や街なかを安全に走行できるまでには、いくつかの課題があることと思います。また、この最先端の ITS 技術を使っていくのは人であることから、人が ITS 技術を賢く使いこなし、そう遠くない将来、自動運転による事故のない安全で快適な車社会が到来することを楽しみにしています。(U)